

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌
なみなみ通信は、水産海洋技術センターからの情報を、漁業者や県民の方々にお知らせする情報誌です。

VOL.71

発行/令和元年6月



魚食促進サイト「じざかなび福岡」トップページ

調査・研究情報

- 有明海のノリ養殖は5年連続で生産額 150 億円超え 2
- 平成 30 年度カキ養殖の生産結果 2
- アユの遡上状況 2
- 健全なアワビ稚貝の放流で資源づくりに貢献 3

なみなみニュース

- 漁業調査取締船「げんかい」がシップ・オブ・ザ・イヤー2018
の漁船・作業船部門賞を受賞 3
- 福岡有明のり感謝祭 4
- 第 11 回「豊前海一粒かき」キャンペーン in 沖縄 4
- 魚食促進サイト「じざかなび福岡」を開設 4
- 6 次化商品の開発が進む 6

普及だより

- 糸島市地域水産業再生委員会が浜の活力再生プラン
優良事例として農林水産大臣賞を受賞 6
- 豊築漁協青壮年部の今さんが第 24 回全国青年・女性交流大会
で農林中央金庫理事長賞を受賞 7

研究員紹介

- 研究部 技師 飯田 倫子 7

人事異動 8

調査・研究情報

有明海のノリ養殖は5年連続で生産額 150 億円超え

平成30年度の有明海におけるノリ養殖は、生産枚数が11.2億枚（平年比88%）、生産額は151億円（平年比97%）となり、5年連続で150億円を超えました。

今漁期は、少雨やケイ藻プランクトンの増殖に伴う栄養塩の減少や水温が高めに推移したことにより、色落ちや病害が懸念されました。

このため、研究所では、海況やノリの生育状況の調査回数を増やすなど養殖指導を強化しました。一方、漁業者も適切な養殖管理を行ったことから、高品質なノリが生産されました。

（有明海研究所のり養殖課）

平成 30 年度カキ養殖の生産結果

【豊前海区】

豊前海区のカキの生産量は約 1,380 トン（平年比 100%）となりました。

3～4月の水温が高く、人工島周辺漁場等で一部クロダイによる食害を受けたものの、豊前海研究所の開発した「束ね垂下」による養殖管理によりその被害は軽減され、またその後の海況が良好に経過したことから成長や身入りも良好に推移したため、平年並みの生産となりました。

（豊前海研究所浅海増殖課）

【筑前海区】

筑前海区のカキの生産量は約 606 トン（平年比 116%）となりました。

今漁期は、筑前海全体の生産量の8～9割を占める糸島地区で海況が安定したこと、また、一部の漁場では「束ね垂下」を取り入れたことなどから、成長・生残とも良好に推移し、平年を超える結果となりました。

（研究部浅海増殖課）

アユの遡上状況

アユは秋に川で産卵し、ふ化したアユは川を下って海で生活します。その後、海で5～10cmに成長した稚アユは2月から5月にかけて川を遡上します。

アユの主要な漁場である筑後川、矢部川では平成29、30年と豪雨が続き、その影響でアユの産卵親魚の数も減少しました。そこで、県では漁業者の皆さんと共同で、緊急の受精卵放流、産卵場造成等を行い、資源回復に取り組みました。

その結果、今年の稚アユの遡上は、両河川とも昨年より好調で、特に筑後川では今年の2倍以上の遡上数が確認されています。今後も漁業者の皆さんと連携しながら資源回復に取り組んでいきます。

（内水面研究所）



遡上した稚アユ

健全なアワビ稚貝の放流で資源づくりに貢献

筑前海の磯漁場には、(公財) ふくおか豊かな海づくり協会(宗像市)で生産されたクロアワビ稚貝が毎年約60万個放流されています。このアワビは放流3年後から漁獲され、その効果は漁業者も実感しているところです。

放流の効果を上げるためには、何と言っても健全な稚貝を放流することが必要です。昭和59年に、稚貝を生産する過程で病気が全国的に流行し、一時的に種苗生産が不調になる時期がありましたが、センターでは全国に先駆けてこれを克服し、平成10年以降、健全な稚貝を生産することができるようになりました。

この生産のポイントは①生産施設や器具、施設に立入する時の手足等の消毒を徹底、②飼育過程の全てで紫外線殺菌海水を使用、③センターが無病の親貝を隔離飼育し、ここで採卵したものを協会では稚貝まで飼育することです。

センターと協会では現在までこの体制を維持し、健全な稚貝の安定供給を続けています。

センターでは、この他にも、協会への技術指導や新たな親貝の確保・飼育を行うなど、クロアワビ稚貝の安定供給に大きな役割を果たしています。

(研究部応用技術課)



協会で生産されているクロアワビ稚貝

なみなみニュース

漁業調査取締船「げんかい」がシップ・オブ・ザ・イヤー2018の漁船・作業船部門賞を受賞

昨年3月に竣工したセンターの漁業調査取締船「げんかい」が、日本船舶海洋工学会が主催するシップ・オブ・ザ・イヤー2018で、漁船・作業船部門賞を受賞しました。

独特のプロペラや船首形状等により、波の荒い筑前海でも揺れの少ない航行と高速性能をもつ優れた調査取締船であることが評価されたもので、調査船が排水量型(従来の漁船タイプ)から多機能な高速艇へシフトする先例となるのが期待されています。

今後とも「げんかい」が、筑前海の水産業の発展のために役立てるよう、しっかり業務に取り組んでまいります。

(企画管理部企画情報課)



げんかい

福岡有明のり感謝祭

福岡有明海漁業協同組合連合会が、2月17日にイオンモール大牟田で「福岡有明のり感謝祭」を開催しました。大牟田市での開催は初めてで、「福岡有明のり」の販売の他、のりすき体験、ジャンボ巻き寿司作り、手巻きごはんの提供などが行われました。一番美味しいのりを消費者に選んでもらう品評会では、柳川漁協所属の開田将太さんの生産したのりが最優秀賞の福岡県知事賞を受賞しました。来場者数は約2,000人で、多くの方々に「福岡有明のり」をPRすることができました。

(有明海研究所のり養殖課)



のりすき体験

第11回「豊前海一粒かき」キャンペーン in 沖縄

豊前海一粒かきは、生産量の8割以上が宅配便や浜で直接販売されています。その販売量を増加させるためには、消費者に、豊前海一粒かきの名前やおいしさを、広く知ってもらうことが重要です。このため、県内外において、様々な機会を捉えて、PR活動を行っているところです。

この一環として、3月に沖縄県豊見城市において、生産者主催によるカキ汁の無料試食と殻付き活カキの販売会が行われました。沖縄県でのキャンペーンは、今年で11回目であり、新聞やテレビによる事前告知もなされたことから、キャンペーン会場には、200人以上の行列ができるほどの大盛況で、沖縄での「豊前海一粒かき」の知名度が向上していることを実感できるイベントとなりました。

(豊前海研究所浅海増殖課)



キャンペーンに並ぶ人達

魚食促進サイト「じざかなび福岡」を開設

福岡県には、筑前海・豊前海・有明海や筑後川などの河川があり、地域ごと・季節ごとに多種多様な地魚を楽しむことができます。

この度、福岡県では、美味しい地魚が食べられる「ふくおかの地魚応援の店※」や、地魚に関連したイベント、浜の水揚げ状況や直売所など、地魚に関連する様々な情報を紹介するホームページ「じざかなび福岡」を開設しました。

このホームページを通じて、水産物を取り扱う業者や一般消費者の方々に広く地魚に関連する情報を発信し、県産水産物の認知度向上・消費拡大に繋げてまいります。

また、このホームページを充実させるためには、皆様の協力が必要です。イベント情報や産地情報などあれば、情報提供（Tel：092-806-5251）をよろしくお願いします。

(企画管理部企画情報課)

※県産水産物を積極的に取り扱っている県内の飲食店や直売所などを県が認定
(令和元年5月末現在で428店舗を認定)

「じざかなび福岡」の概要

トップページ



ホームページの特徴

5つのコンテンツ

- ①地魚関連イベント情報
- ②ふくおか地魚応援の店
- ③イチオシ地魚
- ④地魚ライブラリー
- ⑤産地情報

その他

- ・スマートフォンに対応

TOPICS

新着情報の案内。

①地魚関連イベント情報

これから行われる地魚関連イベント情報を掲載。イベントごとに詳細を紹介。

②ふくおか地魚応援の店

県内約400店の「ふくおか地魚応援の店」の情報を店ごとに地図案内付きで掲載。

③イチオシ地魚情報

県内でとれるイチオシの地魚たち26種の情報を水域別・季節別に紹介。

④地魚ライブラリー

県内でとれる魚介類約100種、県内で行われる漁法約30種類を図などでわかりやすく紹介。

⑤産地情報

県内の浜の水揚げ状況や直売所などの最新情報を紹介。

アドレス <https://jizakanabi-fukuoka.jp/>

「じざかなび」で検索
してください



6次化商品の開発が進む

センターでは、漁業者が取り組む6次化商品開発の技術指導に力を入れています。

福岡市漁協西浦支所では、ごち網漁業で漁獲された魚を原料とし、灰干し干物を開発しました。この商品は、製造元の極海（KIWAMI）（直送も受付）や緑の農園直売所「にぎやかな春」で販売されています。

宗像市大島支所が開発したのは、大島周辺で採取される天然アカモクを原料としてすり身に混ぜ込んだ「アカモク天」、胡麻豆腐に混ぜ込んだ「アカモク入り胡麻豆腐」、大島産のマダコを使用し梅じそ風味に仕上げた「たこもく」など、いずれもご家庭で使いやすくお土産にも適した商品です。これらの商品は、大島支所直販所「さよしま」で購入することができます。

（研究部漁業経営課・応用技術課）



灰干し干物



アカモク天



アカモク入り胡麻豆腐



たこもく

普及だより

糸島市地域水産業再生委員会が浜の活力再生プラン 優良事例として農林水産大臣賞を受賞

糸島漁協や市・県で構成される「糸島市地域水産業再生委員会」では、「浜の活力再生プラン」を策定し、「志摩の四季」「福ふくの里」「カキ小屋」等の直接販売やサワラの高鮮度処理による販売単価の向上等、地域全体の活性化に向けた取組を行っています。

今回、これらの取組が高く評価され、「糸島市地域水産業再生委員会」が、平成30年度浜の活力再生プラン優良事例の最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞しました。

今後も、地域全体での取組とさらなる活性化が期待されます。

（企画管理部企画情報課）



左：高鳥 修一農林水産副大臣、右：仲西 利弘糸島漁協組合長

豊築漁協青壮年部の今さんが第24回全国青年・女性交流大会で農林中央金庫理事長賞を受賞

2月28日～3月1日の2日間、東京都で第24回全国青年・女性漁業者交流大会（JF全漁連主催）が開催されました。

本県からは、豊築漁業協同組合青壮年部の今 智彦さんが「浜の活性化は自分たちの手で～漁師が描く“うみてらす豊前”の未来～」というテーマで発表しました。

内容は、青壮年部の長年の夢であった「遠方客を地元を集め、漁業者自身が値決めして直売」を行えるよう、漁協直営の直売所“うみてらす豊前”を立ち上げ、メディアを通じた情報発信や目玉商品の開発によるリピーター獲得などの取組により、低迷していた魚価が向上したというものでした。

このような取組が評価され、今回農林中央金庫理事長賞を受賞しました。

（豊前海研究所浅海増殖課）



発表を行う今 智彦さん

研究員紹介

研究部 技師 いいだ のりこ 飯田 倫子

研究部に配属されて2年目の飯田 倫子です。

大学を卒業して魚礁設計会社に勤め、長浜市場で鯨を売り、昨春から福岡県職員になりました。1年目は浅海増殖課で主に貝類の種苗生産を担当し、今年からさらに水産加工品の試作や漁家経営の調査に携わっていきます。身を置く環境が目まぐるしく変わって忙しいですが、色々な立場から福岡の水産業に関わらせて頂けることを純粋に嬉しく感じています。

飼育室とフィールドにばかりいた昨年までよりも、みなさまのお目にかかる機会が増えると思います。県産水産物の販売促進、ひいては漁業経営の改善のため力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



人事異動

(平成31年4月23日付け)

●転入

○企画管理部・研究部

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
企画管理部	企画情報課	課 長 篠原 直哉	水産振興課
研究部	資源環境課 (げんかい)	主任技師 大西 哲平	豊前海研究所 (ぶぜん)
		技 師 美山 幸大	新規採用
	資源環境課 (つくし)	主任技師 松下 渥史	有明海研究所 (ありあけ)
	漁業経営課	課 長 濱崎 稔洋	有明海研究所 (資源増殖課長)
		研究員 中原 秀人	再任用 (4月1日付)
	浅海増殖課	主任技師 梨木 大輔	輸出促進課
		技 師 亀井 涼平	新規採用
	応用技術課	課 長 池浦 繁	企画管理部 (企画情報課長)
	専門研究員	宮内 正幸	漁業管理課

○有明海研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
のり養殖課	企画主査	田中 和子	筑後家畜保健衛生所
	主任技能員	伊藤 政治	福岡県土整備事務所
	技 師	石津 まりの	新規採用
のり養殖課 (ありあけ)	主任技師	仲西 翔太	漁業管理課 (しんぷう)
資源増殖課	課 長	佐野 二郎	漁業管理課
	研究員	江崎 恭志	研究部
	技 師	合戸 賢利	新規採用

○豊前海研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
漁業資源課	主任主事	森重 未知	行橋農林事務所
	研究員	後川 龍男	研究部
漁業資源課 (ぶぜん)	主任技師	馬渡 拓一	研究部 (げんかい)

○内水面研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
内水面研究所	主任技師	兒玉 昂幸	水産振興課

●転出

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
農林水産部水産局 漁業管理課	漁業調整係長	秋本 恒基	研究部
	主任技師	井手 浩美	有明海研究所
	技術主査	吉田 幹英	再任用
漁業管理課 (しんぷう)	主任技師	濱田 健吾	研究部 (つくし)
水産振興課	漁場整備係長	的場 達人	有明海研究所
	技術主査	篠原 満寿美	研究部
	技術主査	松本 昌大	内水面研究所
	主任技師	俵積田 貴彦	豊前海研究所
県土整備部 苅田港務所	事務主査	坂本 篤	豊前海研究所

●退職 (平成31年3月31日付け)

旧 所 属	職 名	氏 名
研究部	漁業経営課長	中原 秀人
研究部 (再任用)	技術主査	林 照彦
有明海研究所	参事補佐	吉田 幹英
	事務主査	濱崎 國子

<編集発行> 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
 〒819-0165 福岡市西区今津 1141 番地 1
 TEL:092-806-5251 FAX:092-806-5223
 センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>